

機械翻訳を利用した授業を構想してみよう

第 13 回関西スペイン語教師の集い

(第 150 回関西スペイン語教授法ワークショップ (TADESKA) 例会)

日時：2022 年 2 月 17 日 (木) 13:50 - 15:50

場所：Zoom を利用したオンライン開催

担当：柳田玲奈

Planeemos unas clases adoptando la TA

XIII Encuentro de Profesores de Español en Kansai

(CL Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai (TADESKA))

Fecha y hora: Jueves, 17 de febrero de 2022, de 13:50 a 15:50

Lugar: En línea (Zoom)

Moderadora: Reina Yanagida

本ワークショップでは、スペイン語初級学習者の授業において機械翻訳（以下、TA）をどう扱うかをテーマとし、参加者がグループに分かれて議論しながら具体的な授業案を構想するという活動を行った。当日の流れに沿って、ワークショップの趣旨と、グループ活動後に各グループから報告された内容を以下に記載する。なお、〈各グループの活動まとめ〉は、参加者から本ワークショップ担当者（以下、担当者）に寄せられた文書と、担当者自身がワークショップ内でとったメモとを照らし合わせながらまとめたものであり、担当者の記憶違いや解釈間違いにより参加者の意図した内容とずれている可能性がある。文責はすべて担当者にある。

El tema principal de este taller es cómo abordar la traducción automática (TA) en la clase de estudiantes principiantes de español. En este taller, los participantes trabajaron en grupo para debatir y hacer planes de una clase adoptando la TA. A continuación se informa el objetivo del taller y el contenido de la conversación de cada grupo. El resumen de la conversación de cada grupo se basa en las notas entregadas de los participantes y las que tomó la moderadora durante el taller, por lo que en caso de que haya alguna equivocación o malentendido, la responsabilidad recae en la autora de este informe.

<導入>

大学などのスペイン語の授業で学生が TA を使うことが学習効率や効果にどう影響する

のかということ、これまで TADESKA においても何度か議論してきた。そのたびに、おおよそ同じような結論で話し合いが終わっていたような印象が、担当者にはあった。結論というよりは寧ろ、ここより先にあまり話し合いが進んでこなかったと言えるだろう。ひとつは、「ある程度スペイン語力のついた段階であれば、TA の間違いなどを利用して効果的な学習が可能だろう」ということである。これは担当者としても大いに同意する点であり、本会合の午前の部で行われた立岩氏の発表等、いくつかの実践報告も発表されつつある。今後このような実践報告をもとに効果的な TA の利用法が提案されていくことは間違いないだろう。

では、ある程度スペイン語力がつく前の段階、つまり学習を始めたばかりの初級学習者の場合はどうなのか。これまでの話し合いで担当者の記憶に残っているのは、一言で言えば「初級の段階で TA を中途半端に利用すると、学習に悪影響がある」という見解である。まだ基本的な文法規則や語彙が頭に入っていない状態で TA を利用することで、学修の必要性が軽視されたり、不適切な語彙や表現に気づかないまま使用してしまったりということが容易に起こりうるからである。この点にも、担当者は同意している。

では、初級学習者には初回授業で一言、「TA は使用禁止です」と言って片付く問題なのか。もちろん現実問題としてそういうわけにはいかないのは明らかである。であれば、初級学習者を対象にしたケースをもっと突き詰めて考える必要があり、これは中級以上の学習者に TA 利用を応用するのと同じくらい喫緊の課題と言えるだろう。

なお、本ワークショップは決して「初級学習者に対しても TA を積極的に利用すべき」という意図に基づいたものではない。本ワークショップを通じて初級学習者に TA をどのように導入すべきかを、具体的に踏み込んで考えてもらうことによって、継続的に TA を利用しながら学習を進めるスタイルができるかもしれないし、最終的に「やはり初級学習者には TA を使用しないよう指導するのが一番だ」という結論に至るかもしれない。後者の場合はそれで構わないし、それならどうすれば学生たちに使わないよう説得できるかという点を具体的に考える活動につなげればよいということである。本ワークショップを通してどのような結論に至るかは、各参加者の自由であり、おそらく絶対的な正解はないと言える。

<Introducción>

Hasta ahora hemos tenido varias conversaciones en TADESKA sobre la TA, y varias veces he oído los comentarios que dicen que “para los estudiantes con algunos conocimientos de español, se podrá aprovechar la TA para su aprendizaje, por ejemplo buscando los errores que comete el TA”. En una diapositiva de la reunión de noviembre (por la Prof. Letelier y la Prof. Valverde), he encontrado una frase: “Para que el TA sea efectivo se debe contar con un mayor conocimiento del idioma estudiado”.

Estoy de acuerdo con dicha idea, y ¿qué pasa con los casos de los estudiantes

principiantes, que acaban de empezar a aprender español? Creo que he oído a muchos de los miembros de TADESKA decir: “Generalmente el uso del traductor automático ejerce mala influencia a los estudiantes principiantes”. Si uno utiliza la TA sin conocimientos básicos de español como las reglas gramaticales o vocabulario, se puede llevar a los casos en los que no da importancia a estudio o usa las frases o expresiones inadecuadas sin darse cuenta. Con este punto de vista también estoy de acuerdo.

Sin embargo, este problema no se resuelve diciéndoles a los estudiantes que no utilicen el TA, porque es un atajo tan atractivo para ellos. Necesitamos dar un paso más y profundizar en los casos de los principiantes, que es una tarea apremiante para nosotros profesores así como la aplicación de la TA a los estudiantes intermedios.

Por otra parte, este taller no tiene intención de promover el uso de la TA en los casos de los principiantes. Nuestro propósito es ofrecer oportunidad de conversar sobre la introducción de la TA en los casos de los principiantes, y no llegar todos a una idea “correcta”. Algunos pueden crear un estilo en el que avancen el proceso de aprendizaje aprovechando el TA, y otros pueden concluir finalmente que es mejor prohibir a los estudiantes usar el TA tras este taller. En este caso, habrá que reflexionar sobre cuál sería la persuasión más efectiva para los estudiantes. Además, no existirá una respuesta absolutamente correcta.

<設定>

- 1) 対象は、初級学習者とする。専攻・非専攻は問わない。
- 2) 使用する翻訳システム（アプリ）については、各教員が自由に選択・決定できるものとする。（例：Google 翻訳、DeepL、Reverso Context・・・）
- 3) 構想する案は、授業1回分でもいいし、数回に渡るものでもいいし、半期や1年間のプロセスでもいい。

<Indicaciones>

- 1) Crear un plan dirigido a los estudiantes que acaban de empezar a aprender español, que sean de especialidad o de no especialidad.
- 2) Los profesores pueden elegir las aplicaciones de TA: Google Translate, DeepL, Reverso Context, etc.
- 3) El plan puede ser para solo una clase o uno que abarca varias clases, o un plan para un semestre o un año entero como si fuera un syllabus.

<各グループの活動まとめ>

グループ A

- ・授業の初日を想定。英語は学習経験があるはずなので、それに基づく TA の使用状況を質問して確認する。学生はおそらくパソコンのアプリよりスマホのアプリを使用することが多いだろう。
- ・間違いやすそうなフレーズや **falsos amigos** などを素材とし、日本語からスペイン語、英語からスペイン語への翻訳を、まず辞書でさせ、その後複数の TA でさせる。
- ・上記の活動を通して、辞書を持っていない学生には持つ必要性を確認させる。

グループ B

- ・学生が TA を有効に使用できるように育てるのがねらい。
- ・TA には、瞬時に大量の情報を翻訳してくれる、定型文は問題ない等のメリットがあるが、同時に、口語体は苦手そう、ニュアンスは伝えてくれない等のデメリットもある。
- ・最初は 30 秒くらい、そのうち 10 分くらいなど、レベルに合わせて、TA を使ったいいからちょっと内容のあるミニスピーチができるように、毎回タスクを課す。TA の読み上げ機能を使ってとにかく発音練習をさせる。ミニスピーチ後、そこで使われた語彙を使って質問し答えさせるというような実験もよいだろう。
- ・実際にネイティブスピーカーと会話をさせ、TA を使いながら会話することが現実的かどうか体験してもらおう。かえってコミュニケーションの妨げになることが実感できたり、その非礼を詫びることも自分の言葉ではできないことに絶望したりするのではないか。「間違ってもいいから自分の言葉で相手の目を見て話すことが大事」ということに気づいてもらえるだろう。
- ・趣味の話などで、自分の「こだわり」について説明するにはおそらく TA では伝わりにくく、授業のテーマや目標をそこに合わせて会話させる。TA でフレーズは翻訳できても、発音、ジェスチャー、抑揚など、発話には他にも大切な要素があることに気づかせる。
- ・キャンパス案内や観光案内などの課題を出して、教室の外に出てもらう。掲示板などを説明する際に、Google 翻訳などのリアルカメラ自動翻訳は役立つだろう。それについて実践でどれだけ自分の言葉で補足説明ができるかを試させる。

グループ C

- ・第二外国語の授業ではあまり時間がないので、授業 1 回分を機械翻訳の導入にはあてられない。(高校は比較的自由にできる)
- ・男女、単複、主語、活用などの基本的な学習をした段階で、試験の前に複数の翻訳ツールを使ってもらい、すでに学習した内容を訳してもらい、その限界を知ってもらう時間を設ける。
- ・男女や冠詞、単複、主語などがうまく反映されない例を見ることで、人が外国語を学ぶ

この意味を確認し、モチベーションを上げる。逆に学生側は、翻訳ツールが間違えた点を自分は間違えず分かるということが体験でき、自信が持てる。

- ・ツールは使ってもいいけど、完全ではないことを理解してもらう。
- ・複数のツールを使って確認させたり、宿題にしたり、グループで競わせたりすることも検討。
- ・モラルについては、学生自身が自分の言葉で言うことが大切で、テストの前に行うのがよい。
- ・今後、ウェアラブル端末などの問題も出てくると考えられる。試験前に注意喚起を行う。

グループ D

- ・気になるのは、授業や学習にスマホを使う弊害。つい気がそれてしまったりもする。
- ・今回は、非専攻の文法中心の授業のケースを考える。
- ・辞書を使える学生と使えない学生とでは、初級段階でだんだん学力に差が出てくる。
- ・機械翻訳に頼る学生は、辞書が使えるようにならない。また、スマホを使っていると学習に集中できないことがよく起こる。
- ・実態として学力の差は開いていくが、一方で教科書の和訳・西訳の練習問題をさせると機械翻訳などを利用して正解する学生が多く、実は学べていないということに気づきにくい。そして気づいた頃には、低学力に対応しづらくなっている。
- ・そこで、反転授業の発想。従来の意味の「単語調べ」という予習を授業で行う。
 - 学生たちは紙か電子式の辞書必携（スマホ等は不可）で、授業中に練習問題に出てくる単語調べをさせる。その際、教員が辞書の使い方を指導する。
 - その練習問題は次回の授業までの宿題となる。学生は授業外で機械翻訳を使うかもしれないが、その結果と授業中に辞書で調べて導かれた内容に差異がある場合は自分でどちらがよいか判断することになる。
 - 一次の授業で宿題の答え合わせ。機械翻訳と辞書を使った訳の正しさを、学生が検証することになる。
 - 授業中にあまり長い時間はとれないにせよ、継続的に授業中にこのような流れを取り入れることにより、学生が常に辞書を使うようにすることで、学力を維持・向上させていく。

グループ E

- ・2年生の講読の授業、第1回目を想定してみたが、従来のような和訳や内容理解を単純に問うことが通用しなくなって本当に厄介。

グループ F

- ・ser/estar の判断が必要な和文西訳を、機械翻訳でやらせてみて、「日本語からは一見同じ動詞を使いそうなのに、違う動詞を使っているね」というようなことを示すツールとして使ったりできそう。

<Resumen de las actividades en grupo>

Grupo A

- Un plan para el primer día de la clase.
- Preguntarles: qué aplicaciones han utilizado anteriormente (para estudiar inglés), cuándo las utilizan (para entender el libro de texto, para hacer ejercicios, para hacer redacciones, etc.), y para qué las utilizan. Nos imaginamos que los estudiantes suelen utilizar las aplicaciones de smartphone.
- Hacer ejercicios simples:
 - Pedirles que traduzcan 3 frases de ejemplo (con errores comunes y falsos amigos), del japonés al español, del inglés al español, del español al inglés y del español al japonés. Primero utilizando el diccionario, y después utilizando las 3 aplicaciones (Google Translate, DeepL, Reverso). Ejemplo de frases: “Los niños juegan a pelota en el parque”, “Me gusta salir por la noche”.
- Tras dicha actividad, los convencemos para que tengan un diccionario.

Grupo B

- El objetivo es desarrollar la capacidad de los estudiantes para utilizar eficazmente la TA.
- Ventajas de TA: Se puede traducir una gran cantidad de texto en un instante. Parece que no tiene mucho problema en traducir oraciones de forma fija.
- Desventajas de TA: Parece que tiene problemas en traducir oraciones en forma coloquial. No se puede comunicar bien el matiz de las oraciones.
- Hacemos que los estudiantes hablen con un hablante nativo para experimentar si es realista hablar con ellos usando el TA. Suponemos que sentirán que la TA puede ser un obstáculo para la comunicación, y el hecho de que no sepan disculpar por la descortesía con sus palabras los puede hundir en la desesperación. Esperamos que se den cuenta de que lo importante es hablar con sus palabras mirando los ojos del interlocutor sin preocuparse por errores.
- Para hablar detalladamente de su afición o gusto, a lo mejor no sirve el TA, por lo que lo tomamos como el tema de conversación en clase. Esperamos que se den cuenta de que al hablar deben prestar atención a la pronunciación, gestos, entonación etc, además de la traducción.
- Les damos tareas de pequeño discurso, por ejemplo uno de 30 segundos al principio. Pueden utilizar el TA pero el discurso tiene que tener cierto contenido. Podrán practicar la pronunciación aprovechando la función del TA que lee el texto en voz alta.

Después podremos hacer unas preguntas utilizando el vocabulario que haya aparecido en el discurso.

- Les hacemos que salgan del aula para hacer la tarea de la guía del campus o la guía turística. Podrán usar la función de fotografía del TA (ej. Google Translate) para explicar el contenido de los letreros. Intentarán dar una explicación complementaria sobre dichos letreros con sus palabras.

Grupo C

- Como no sobra mucho tiempo en el caso del curso de la segunda lengua extranjera, no podemos asignar una clase entera para introducir la TA. (En el caso de bachilleratos (koko) la hora es relativamente flexible.)
- Cuando hayan aprendido el contenido gramatical básico, por ejemplo el género y número de sustantivos, sujetos, conjugación de verbos, les hacemos a los estudiantes que experimenten el TA: Intentan traducir con unos TTAA las frases que contienen los puntos gramaticales que ya han aprendido. Así conocerán los límites de la TA. Esto se ejecuta antes del examen.
- Conociendo los ejemplos que dan los TTAA, en los que no están reflejados el género, número, los artículos, sujetos, etc, comprobarán el significado de que los humanos aprenden idiomas extranjeros y aumentarán su motivación. Además ganarán confianza en sí mismo cuando vean que el TA ha traducido mal donde ellos saben traducir bien.
- Les hacemos a los estudiantes entender que la TA no es perfecta, aunque la pueden utilizar.
- Es importante que los estudiantes mismos declaren lo de la moral antes del examen.
- Debemos observar las tendencias digitales, por ejemplo la aparición de aparatos portátiles.

Grupo D

- Nos preocupamos por las malas influencias que da el uso de smartphone en clase o durante el estudio. Pueden distraerse involuntariamente.
- Esta vez creamos un plan de clase de gramática para los estudiantes de no especialidad.
- La diferencia de capacidad entre los estudiantes que saben consultar el diccionario y los que no lo saben se hace poco a poco mayor en la etapa de nivel elemental.
- Los estudiantes que se apoyan en la TA no llegan a manejar bien el diccionario. Además, cuando usan el smartphone, muchas veces no pueden concentrarse en el estudio.
- La diferencia de capacidad se hace cada vez mayor. Por otra parte, sin embargo, cuando

hacen ejercicios de traducción (del japonés al español y del español al japonés), muchos estudiantes dan soluciones correctas con la ayuda del TA y no se dan (o no nos damos) cuenta de que en realidad no lo tienen entendido. Y cuando se dan cuenta, ya es tarde para recuperarse.

- Una clase inspirada del estilo “clase invertida”: Les hacemos a los estudiantes que preparen la lección dentro de la clase consultando el diccionario.
 - Los estudiantes tienen que traer su diccionario impreso o electrónico (no de la aplicación de smartpone) a clase y consultan el vocabulario que aparecen en los ejercicios en él. El profesor (la profesora) les enseña cómo usar el diccionario.
 - Luego, los ejercicios los harán en casa como tarea para la siguiente clase. Los estudiantes pueden utilizar la TA fuera de clase, pero como ya tienen los resultados de la consulta con el diccionario, podrán compararlos con los resultados de la TA y juzgarán cuál es más adecuado.
 - En la siguiente clase, juntos corregimos los ejercicios. Ahí comprobarán la certeza del diccionario y la TA.
 - Aunque no se puede asignar mucho tiempo de clase para este tipo de actividad, así podremos hacer a los estudiantes que utilicen siempre el diccionario continuamente, y esperamos mantener o elevar su nivel escolar.

Grupo E

- Suponemos el primer día de la clase de lectura para los estudiantes de segundo grado. Es realmente problemático que ya no sirva preguntar simplemente la traducción o el contenido del texto como antes.

Grupo F

- Podremos utilizar la TA como un instrumento para mostrarles ejemplos: una frase en japonés que nos hace juzgar si se usa el verbo *ser* o el verbo *estar* para traducirse. Así verán la diferencia de los dos verbos, que es difícil de distinguir para los estudiantes japoneses.